民報 | 平成30年 7月 16日(月) | 18 面 | 医大

子どもと女性の健康相談室

28

福島医大ふくしま子ども・女性医療支援センター長
水沼　英樹氏

子宮筋腫㊤

大小や部位で症状差

子宮の平滑筋成分から構成される良性腫瘍を子宮筋腫と呼びます。子宮筋腫はそれ自体が生命に影響を与えることはありませんが、大きさや発生部位によりさまざまな症状を引き起こしますので、そのための治療が必要となる疾患です。

子宮筋腫の代表的な症状は過多月経、月経痛、周囲臓器への圧迫症状です。過多月経は貧血（鉄欠乏性貧血）の原因となりますが、過多月経に伴う貧血は少しずつ進行しますので、高度の貧血であるのにもかかわらずそれに気づかず放置され、息苦しくなって初めて来院し、来院時には輸血が必要となる場合もあるほどです。生理が重い場合には子宮腺筋症や子宮内膜異形成といった疾患を持つ場合がありますので我慢せず早めの受診を勧めます。

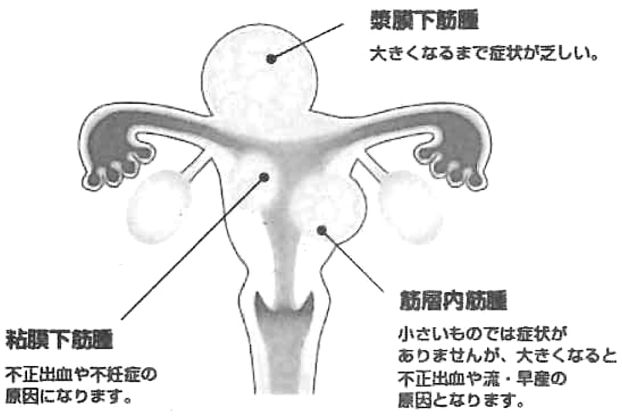
一方、筋腫が大きくなりますとその圧迫症状として頻尿、尿もれ、あるいは尿閉（おしっこが出なくなる）などの症状も出てきます。頻度は高くありませんが腰痛の原因になることもあります。

このように多様な症状を示す子宮筋腫ですが、症状の出方は筋腫の発育している場所により違ってきます。大きさはさほどではないのに過多月経、月経困難症を起こしやすい筋腫は子宮内腔に発生する粘膜下筋腫です。この場合、筋腫自体が子宮口から腟内に飛び出ること（筋腫分娩と呼んでいます）もあります。また、不妊症の大きな原因にもなっています。

一方、子宮筋層内にできる筋腫（筋層内筋腫）は小さなうちは無症状ですが、大きくなりますと過多月経や不妊症の原因となったり、あるいは流産や早産の原因にもなったりします。また、子宮の外側にできる筋腫を漿膜（しょうまく）下筋腫と呼んでいますが、これは大きくなるまで無症状なのが特徴です。

子宮筋腫は女性ホルモン（エストロゲン）の影響で大きくなり、逆に閉経後には小さくなりますので、閉経までどう乗り越えるかがポイントになります。次回は子宮筋腫の治療法についてお話しします。

＝次回は8月20日掲載＝



子宮筋腫の特徴（日本産科婦人科学会ＨＰより引用）

ふくしま子ども・女性医療支援センター
http://www.fmu.ac.jp/home/fmccw/